

星屑

VOL. 203
Feb. 1992

M 42 の
写真を
貼って
ください。

オリオンのM 42 / 九十九里浜東浪見海岸にて
撮影者 宇野誠一氏 データはP. 4参照

熊本県民天文台





東京発 熊本県民天文台行



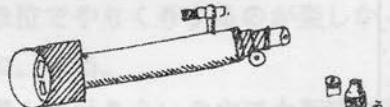
宇野 誠一

平成4年1月3日、久しぶりに天文台の新年会に参加させていただきました。

私にとっては、熊本県民天文台というより天文研究会という方がピンときます。それほど、長い間、御無沙汰していたのかと、参加されているメンバーの顔ぶれを見て思いました。

そのとき、立川氏に星屑の原稿を頼まれたのですが、なにせ、原稿を書くなんて十数年ぶりなので、何を書いていいのかとまどいましたが、皆様のほとんどの方が私の存在すらご存じなかったと思いますので、これから現在の活動報告、それに使用機材の紹介をさせていただきます。

美しい星空を求めて...



東京に出てきて13年がたちました。

当初は、熊本で使ってたTS-65mmP型を持って、高尾山や奥多摩湖などに2カ月に1回位行ってました。これは、大学の同好会でいっていたのですが、東京の光害は思っていたよりひどく、なんとか写真の撮れるくらいの場所はないものかといろいろな所をまわりました。

今では、富士山方面をメインの観測地にしています。

夏（6月～11月）の間は新五号目まで行けますが、一方通行の駐車場なので、登山者の多い7、8月は有料道路の入口近辺でやっています。

冬になると、ほとんど通行止めになるため、山裾か別の場所に行かなければなりません。

今これを読んでいらっしゃる方は、ほとんど富士山で星をみたことがないと思いますが、観測地としてはベストとはいえないのです。

私は月に2回ほど通っているのですが、年間通して満足できるのは、2～3回位なのです。その2～3回というのは、新五号目は標高2300m位の高さで、気象状態が不安定なのですが、たまに雲海が発生して、御殿場や沼津の町明かりを包み隠してくれることがあります。その時は、もちろん上空の状態にもよりますが、星に手が届くような感じがするほど良くみせててくれます。

しかし、ほとんどの時が1カットも撮れずに帰ってきます。



このように関東近郊で天体写真を撮ろうと思うと、観測地の確保という問題が大きく影響してきます。いまだに、私も美しい星空を求めて、彷徨い続けているのです。

★これまで観測地として利用した所★

◎奥多摩湖…有料道路の途中の駐車場で、都内の光が東方面に広がり、写真を撮るのは、天頂付近から西方にかけて、ただし、夜8時～朝8時までは、通行禁止なので車は入ってこない。

◎九十九里方面…一宮海岸、東浪見海岸で、モノクロ写真撮るには問題ないが、カラー（ISO400, F4）では、20分露出限界、地面が砂なので、安定が悪く、夜露もつきやすい。北西、南東に街の明かり有り。

◎筑波山方面…交通の便は良い。やはり九十九里と同じで、モノクロが良く、カラーでは30分程度。東、南西に、街明かり有り。暴走族多し。

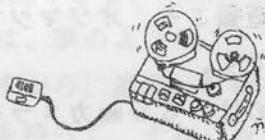
※この他、福島（浄土平等）や山梨、長野方面に遠征することもある。

天体写真をやってらっしゃる人なら誰しも、考えていることだと思いますが、”もっと良く写真に残したい。”私も、そう思い続けている一人なのです。

私も天体写真の世界に入り20年近くになりますが、何度も失敗を重ねて現在に至っています。

ここで、皆様のお役にたつかどうかわかりませんが、私のこれまでの少ない経験と苦労したことについて、お話をします。

私の天体写真歴と撮影システム



最初は誰しも試みると思いますが、カメラと三脚を使って撮る、固定撮影から私も入っていきました。星座、流星、北極星を中心に日周運動を撮ったり…

このころは、現在と違って、フィルムの性能があまり良くありませんでした。モノでは、トライX、ネオパンSSS等、カラーでは、フジクローム100、サクラカラーR100等のフィルムが主流で、”現像液は、パンドールが良いとか、フジは緑には強いが、赤には弱い”とかやっていたものです。今から思うと、ずいぶん昔の話みたいに感じますが、実をいうと、このころ自然にやっていたことが、現在、苦労している一番の問題点となっているのです。

この後、星をなんとか点像に残したくなり、赤道儀（T S - 65 mm P型）を購入し、ガイド撮影を始めました。このころは、熊本の自宅や、熊天研の皆さんと城南、久住等で撮っており、何と言っても、画期的だったのが 103a フィルムの出現でした。

これまでのモノクロでは表現できなかった、赤い星雲などが、驚くほど（写りすぎかな？）写り、ブームとなりました。現像液も自分で調合し、気を使って現像したものです。

写真は、35mmで星野写真、望遠レンズを使用して、星雲、星団の写真を撮っていました。

そして、東京に出てきた分けですが、冒頭でお話した通り、観測場所の問題でてこずり、車を買って、直焦点撮影を始めるため、最初、ε-130 にしました。この望遠鏡を買うときに、日本特殊のライトシュミットとどちらにするか迷ったのですが、手軽さと、店の人の薦めもあり、こちらに決めました。

これがまた、良い望遠鏡で、この後、手ばなしたことを、今でも後悔するほどです。

赤道儀こそ、オソマツでしたが、ハレー彗星のころ大変活躍してくれたものです。

始めは、35mmカメラをつけて撮っていたのですが、仕事で、いろんなカメラを使っているので、その後、6×7（マミヤ）のフィルムホルダーをつけて撮るようになりました。イメージサークルの問題で、周辺部はケラレますが、後のトリミングを考えると、それほど問題もなく、彗星の尾等には最適でした。



しかし、使い続けていくうちに、赤道儀の精度に不満をもつようになり、移動可能で、しっかりしたものということで、NJP にすることに結論が達し、それにのせる鏡筒は、やはり使い慣れた ε-200 に決めました。最初の頃は、前の望遠鏡に比べて、重量があり、組立も一苦労でしたが、その精度と丈夫さには満足し、私の選択は、間違いではなかったと思ったのもつかの間、20cm以上の反射望遠鏡には、宿命的ともいえる問題が、いくつか出てきたのです。

かび上がる。そして天空にはディープスビカが…。調理、安い精算ばかり飲んでいた西

◎問題1：ピントを、いくら正確に合わせても、何コマか撮影していくうちに、ピントが、ずれてしまう。

◎問題2：15～20分位の露出時間では、一応、星は点像に写ってくれるが、それ以上になると、星が流れてしまう。

◎問題3：対象物によって、星が流れる。

今回は、紙面の都合で、3つの問題点を、あげるだけになりましたが、その詳しい解決方法は、機会がありましたら、紹介したいと思います。

これからの新しい目標

私が、今、チャレンジしようと思っていることは、先ほど述べた中で、固定撮影の時、写っていた星たちは、ちゃんと、それぞれの色を持っていましたのに、ネガフィルム主流の現在、その星たちは、色あせて写ってしまいます。これを何とか、固定の時の星の軌跡みたいに、写せないものかということです。

そこで、今後の目標としては、ポジフィルム（ISO100程度）を使い、ドライアイス冷却カメラで撮影をやっていこうと思っています。

最後になりましたが、私みたいに、移動してしか観測できない人間にとて、決まった観測場所（天文台）があるというのは、夢のようなことです。そのような、恵まれた環境にいらっしゃるのですから、是非、皆様も天文台のすばらしい機材を有効に利用し、何か目標を持って、それに取り組んでみてはいかがでしょう。

それに、もし、私と同じことで、苦労されている方がいらっしゃったら、連絡いただければ、私にできることでしたら、お手伝いいたします。

それでは、又の機会に…。

◆写真の解説◆

1992年1月11日 九十九里浜 東洋見海岸にて E-200 NJP フジカラー-HG400 40分露出

コメント：斜鏡スパイダーを強化したので、そのテストを兼ねて、自宅から1時間50分位の九十九里で、撮影しました。

この日は、空の状態も良くはありませんでしたが、あえて、東京の空を実感してもらおうと、ちょっと長めの露出をしました。

現像、紙焼きとも、時間がなかったので、DP店に依頼したら、ご覧の通りの写真があがってきて、私が、一番ビックリでした。

今日は、これで、かんべんしてもらうとして、もし、ほかの紙焼きの写真が見たい方は、連絡下されば、お見せできると思いますので、あしからず。



阿蘇ミルクロードにて

author D-NABE

天文台会員の皆さん、寒さの中どの様にお過ごしでしょうか。この冬の期間中というのは、空気も澄んで絶好の星空観望日が多いので、天文ファンにとっては楽しい時期でしょう？私はと申しますと、山に出かけたくてたまらないのですが、「結婚」というものに縛られまして昨年までの機動性は消滅してしまい残念なこと、この上もありません。

しかしながら、今も脳裏に焼き付いて離れない、昨年12月に久住へ撮影を行った時の素晴らしい体験について紹介してみたいと思いベンを執った次第です。

12月6日、金曜日。定刻通り退社して健軍の寮まで帰る。7日は天文台の立川氏と久住へ撮影に行く予定。天気予報（阿蘇地方 09672-177）では今夜晴れで、明日は夜になり雨とのこと。しかたないので立川氏に電話をして「今晚出かけませんか」と誘つたけれども、残念ながら行かれないとまた一人の撮影行となってしまった。

21時寮を出発すると、辺りは一面の霧で視界が異常に悪い。おまけに東バイパスはノロノロ走行のうえ何故か異常な程渋滞している。その理由が分かったのは、高速道路の入口であった。何と、霧のため全面通行止め！これはデンジャラ～ス！！名古屋行き、大阪行き等の高速バスが東バイパスに溢れており間抜けな様相を呈していた。大津を過ぎるまで深い霧の中であえいでいた我が愛車スバル・ジャスティも、ミルクロードに入つてからは満天の星空のもとをスーグラ節のようにスイスイ走りだし、一路久住高原へと急いだのであった。

23時過ぎ、いつもの撮影地点に着

き機材を組み立てていると、既にカノーブスが上ってきているではないか！実を言うとカノーブスの全軌跡をカメラに収めるつもりでいたのに何故！と思つたのであるが、何のことはない。単に1ヶ月日付を間違えて計算していただけのことであった。トホホ。。。しうがないのでガイド撮影をすることに決め、極軸合わせをしていると、お尻の辺りに異様な感覚が。。。なんじゃ～っ！！！ウサギのウサオとウサコが俺の尻に摺り寄つて来ているじゃないか～っ！驚きのため急に体を動かしたので、2匹はアラヨッと逃げだしてしまった。

この夜はかつてないほどに透明度が良く、カノーブスよりも低い位置に星がハッキリと見えており、思い切って露出をかけてみる気になった。午前3時を過ぎたころだろうか、我が愛車の上に何かがいることに気が付いた。じ～っと見てみると何か2つ光っているじゃあ～りまひろし！何と、ミミズク（よくわからんがミミズクかフクロウの類）が鎮座しているのだ。この珍客としばらくの間一緒にいて写真撮影を行つたのであった。

5時に機材一式をたたみこみ、朝焼けの撮影のためにミルクロードへと急いだ。

5時40分頃、展望所からみた阿蘇のパノラマは言葉を発することができないほどの情景であった。

外輪山の中のカルデラは7割が雲海に覆われている。しかしながら薄い雲海で、下界から何の光だろうか、強い黄色の光が照らしており、その立体感を幻想的なものにしている。雲の隙間からは人々の生活を感じさせる街灯の群れが、そして阿蘇・根子岳の山肌が真っ赤に染まった東の空にくっきりと浮

かび上がる。そして天空にはヴィーナスとスピカが・・・

もしかしたら僕はこの情景に出合うために、今まで天体写真を撮り続けてきたのではないかと思うほど強烈なインパクトを感じた。

中間色がなく、空一面が透き通った強いオレンジ色に染まり、現実と幻想が共存した奇妙な空間。

都会では感じることのできない自然との一体感。

強烈な寒さの中で、ふと学生時代の久住の情景を思い出していた。

経済的には苦しかったが、皆で囲んだ

鍋料理、安い焼酎ばかり飲んでいた酒盛り。しかし楽しかった。

そのころの心の満足感に似た気持ちがその時の僕を支配していた。

どういう共通点があるのかは分からぬがその頃の記憶が眼前に広がる大バノラマと重なったのである。

そして僕はシャッターをきる・・・

天文台の皆さん、大自然の中で星を見ましょう。持つて行くものは双眼鏡一つで十分です。

きっと都会の生活で失っていた安らぎや平穏を取り戻せるはずです。

(きゆうひアングル)

座標天球(すざいきゅう) 星座(せいざ) : 極 半

1. 回転星系

コロナ星雲(コロナヌメイクン)は、アーネスト・ヘンリクセン(エリックセン)によって最初に発見された星雲である。星雲の中心部には「アーネスト・ヘンリクセン星雲」(Arne H. H. Hensen)と名づけられた。星雲は、1850年1月29日、オランダの天文学者ヨハネス・ケーリーによって発見された。

星雲は、アーネスト・ヘンリクセンによって最初に発見された。

星雲は、アーネスト・ヘンリクセンによって最初に発見された。

星雲は、アーネスト・ヘンリクセンによって最初に発見された。

星雲は、アーネスト・ヘンリクセンによって最初に発見された。

星雲は、アーネスト・ヘンリクセンによって最初に発見された。

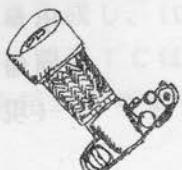


一眼鏡座の散光星雲

Nikon F2 + Ai Nikkor ED 180mm f2.8開放

キヤノン II 30°C 8min.

当日著者撮影





《新入会員自己紹介》

& 《M D 2 軸改造記》

自画像



始めまして、この度会員の皆さんのお席に加えて頂く事になりました。どうぞ宜しくお願ひします。
では早速ですが自己紹介をさせて頂きます。

名 前： 影山 和久（かげやま かずひさ）

年 齢： S 3 3 年生れ（33才）で天秤座 （あまり似てないかも）

生 態： 熊本市保田窪本町の鉄工団地近くに

秘密基地（家族は自宅と呼んでいる）が在って、深夜ご近所が寝静まるとなじみます。市道のまん中に20cm シュミカセをどっかりと据え（はっきりいって近所迷惑な話かも）、天体観測をたしなむ。下手な鉄砲もなんとやらで、パソコン通信(PC-VAN, ARIES他)やアマ無線にガラクタいじり（主にテレスコのパーツ加工や電子工作等）と物には成らないが多趣味で忙しい。でも決してオタクではありません！

勤務先： 市内の某コンピュータ会社に勤務しています

天文歴： はじめて天文に興味を持ったのは、小学校4年生の頃に皆既月食を偶然見てから。赤い月を見ながら何か不思議な魔法を見ているような感覚が今でも記憶に鮮やかです。（ちなみに本渡市出身です）その後中学・高校時代は同級生数人で天文研究会を作つて主に流星観測に没頭していました。その後大学生の時に一旦熊本天文研究会に入会していたのですが就職して天文熱は長い冬眠期を迎えたのでした。しかし去年長男が星に興味を持ち始めたのをきっかけに、ついに10年間の眠りから目覚め深夜機材をワゴンに積んで親子で出かける様になりました。10年ぶりのお目見えで、殆ど短周期の回帰彗星みたいなものです。

（現在10cm反経と20cmシュミカセを使っています）

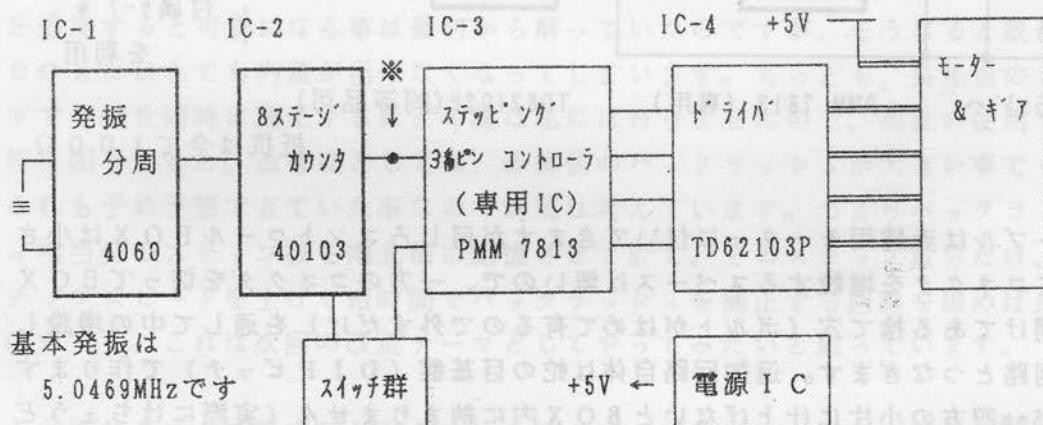
何だか、悪のりの自己紹介になってしましましたが、この際トコトン行ってしまえ、という事で一軸MD（モータードライブ）の二軸化改造についてレポートさせて頂きたいと思います。

今回改造したのはピクセン製の一軸モータードライブ装置の「MD-6SP」です。赤道儀はスーパー・ポラリスなので元々二軸のドライブでの利用に対応しており、赤緯軸用のモーター&ギアもオプション製品で用意されていますので改造点はコントローラー本体内部とケーブル接続の範囲で済みました。

ちなみにこの赤道儀は結構ヒット商品ですから所有している方も多いと思います。製作はかなり簡単ですので腕に覚えのある方はチャレンジしてみて下さい。余談ですが、製作上必要となった製品の技術情報に関してピクセン本社の方が大変誠意的に対応して下さいました。おかげで私はピクセンの大ファンです。

1. 回路解析

いきなりハンドごてとニッパ！では上手く行くはずもありませんので、まず既存の回路を解析してみました。（下図1）



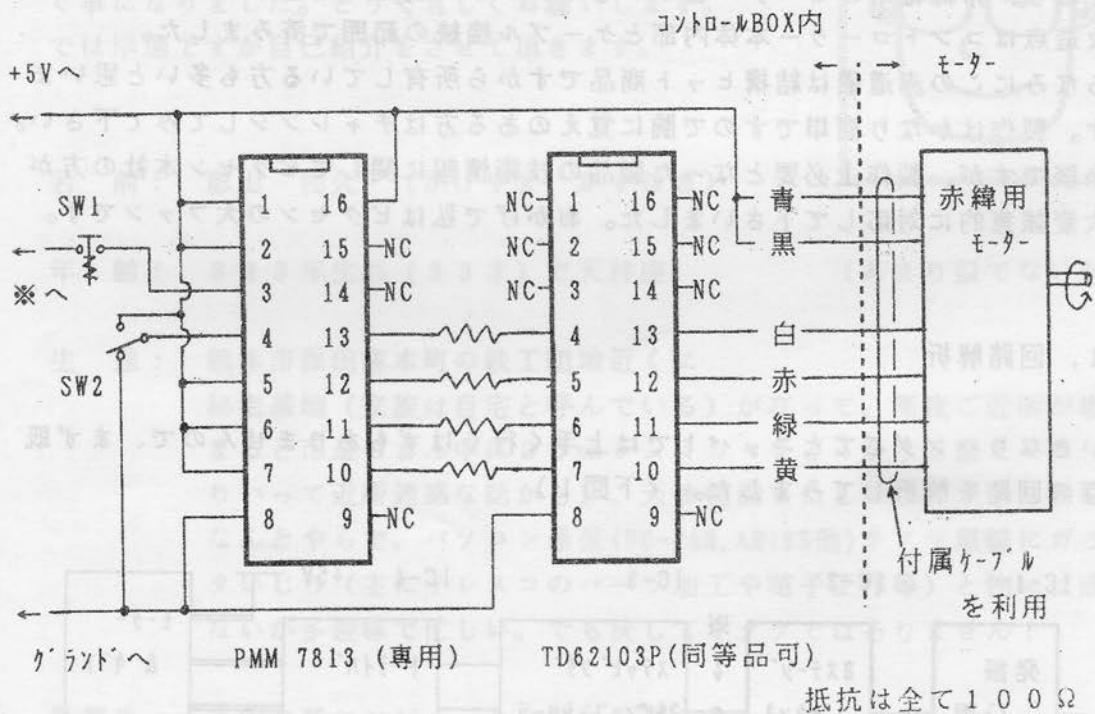
この様に回路は大変にシンプルなブロック構成となっています。

実際の動きとしては、IC-1, 2で必要なクロック（20Hz程度？と思われます）を作り、IC-3がステッピングモーターに必要な4相のパルスを生成し、IC-4がモーターを駆動するというオーソドックスな仕掛けでした。又、電源 I C は3端子レギュレータ(7805 1A)を使用し追加回路の電源も賄える余裕が有ります。

2. 改造範囲

既存の回路が簡単なので改造も、IC 2個と抵抗4本で簡単なステッピングモーター駆動回路を作り図1の※印の所へ接続追加する事でクロック信号をチャックカリ頂いてモーターを駆動しようと言う簡便型で済ませています。

(回路図)



ケーブルは赤緯用モーターに付いてきますが何しろコントロールBOXは小さくてコネクタを増設するスペースは無いので、一方のコネクタを切ってBOXに開けてある捨て穴（ボルトがはめて有るので外すだけ）を通して中の増設した回路とつなぎます。追加回路自体は蛇の目基盤（DIPピッチ）で作りますが25mm四方の小片に仕上げないとBOX内に納まりません（実際にはちょうど良いサイズです）。その他駆動スイッチのSW1と南北の方向切り替えのSW2もしっかり採寸して小型のスイッチを選べばうまく納められます。本当は多接点のスイッチならば一個で済んだのですが残念ながら中には納まりませんでした。次回はスイッチ操作用のBOXとコントローラのBOXに分離をしてみようと思いますのでその時には一つのスイッチで南北への駆動が出来るように改造（本来、これが当たり前なのですが）したいと思います。

3. 使用感想と問題点

先ずバッテリーをつないで室内で動かしてみるとバッテリー発で稼働しましたので一安心でした。その日の夜は少し雲が有ったのですが、先ずはテストだからと早速郊外に出かけて実際に使ってみました。テストはオリオン座のM42を20Cmシュミカセに0.63倍のレデューサーをつけて1260mmの直焦点とし、ガイドは250倍でトライしてみました。もっともこの長さになるとオートガイダーST-4が必要だろうと思いますが、残念ながら持っていますので「そのうち自作しよう」と思っています。一応は操作性や回路の負荷テストが目的ですから特に結果にはこだわりませんでした。（負け惜しみ？）

で、実際の操作感としては、スイッチ位置を親指の動かす範囲内で自然に指が届く様に配慮したために思った以上に使いやすく感じました。心配した南北の方向切り替えも最初は少し迷いましたが誤操作も無く過ごせました。

問題は赤経軸用のクロックをそのまま横取りしているので、赤経軸を2倍速で補正操作をしながら、赤緯の補正スイッチを押すとこちらも当然2倍速で動いてしまいます。つまりこの方式での赤緯側の駆動は等倍速度専用と考えた方が良いでしょう。これを解決して2軸とも独立して駆動速度を変えなければ、IC-2を追加すると可能になる事は最初から解っていたのですが、そうなると既存のBOXにはとても内蔵が出来なくなってしまいます。もっとも、長焦点のガイドで2軸を同時に補正するほどの腕は私には有りませんので、現在の使用でも特に困りません。改善点としては、赤緯側のバックラッシュが大きい事がこれも予め予想できていた事なので対策は考えています。つまりバックラッシュ相当分のステップ数を南北毎に記憶させて於て、そのステップ数分だけ、ステップスピードを上げて短時間でバックラッシュを補正する回路を組めば良いはずです。これは次回の改造テーマとしてやってみたいと思っています。

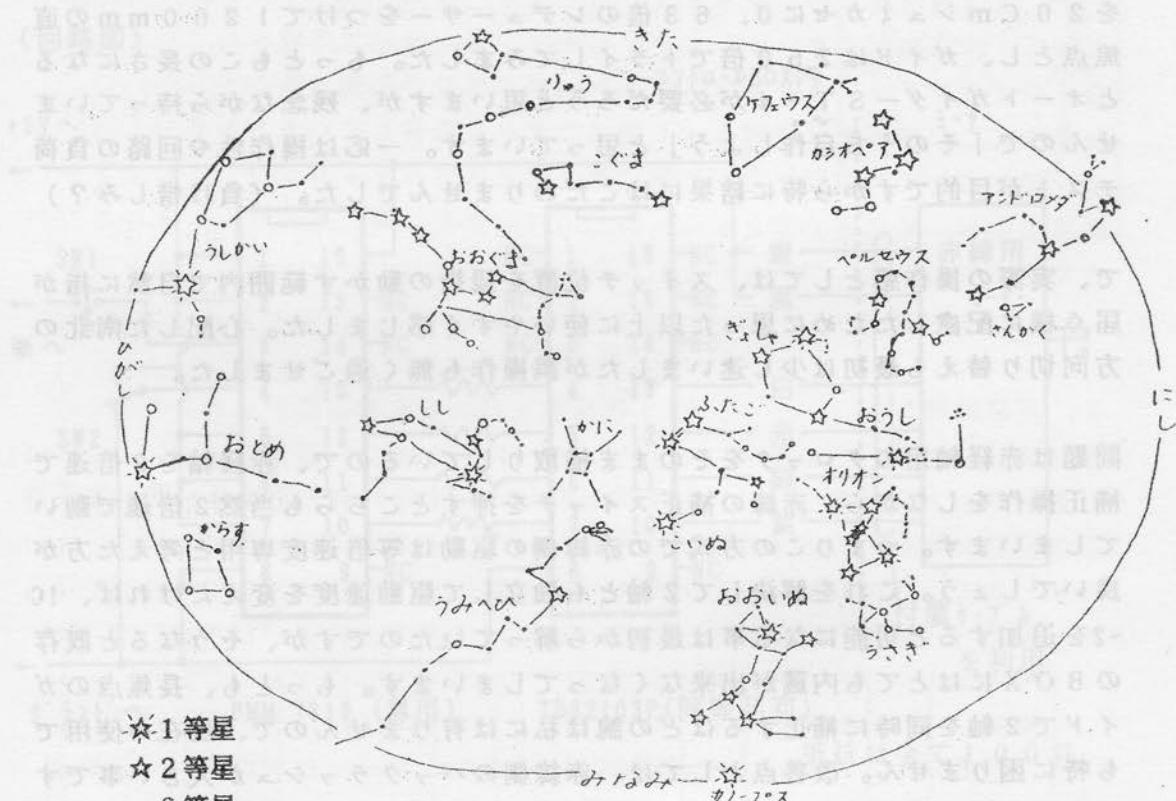
以上の様なテスト結果でしたがやはり2軸ドライブでガイドが楽になる事はまちがいなさそうで、これから実稼働にどんどん活用して行きたいと思っています。現在では、更に自作のPEC（ピリオディックエラーコレクション）機能付きに改造しようと回路設計を行っていますので機会があったらまたレポートさせて頂きたいと思います。



KEIKOの星空散歩

3月上旬 ☆ 午後9:00頃

3月下旬 ☆ 午後8:00頃



- 4日（水） 新月
- 9日（月） Talk about (天文台)
- 17日（火） 彼岸の入り
- 19日（木） 満月
- 20日（金） 春分の日

魚座生れの会員さん(2.21~3.20)

Happy birthday☆	
No. 323	田中さん
No. 324	竹市さん
No. 351	立石さん
No. 366	浅川さん
No. 384	折小野さん
No. 387	三森さん
No. 389	山内さん
No. 390	工藤さん
No. 400	佐久間さん
No. 402	富永さん

魚座

Pisces (Psc)



ペガススの四辺形は明るい星の少ない秋の星座の中では見つけ易いのですが、このペガススの北側と西側を囲む様に連なる星が魚座です。この魚座は二匹の魚がリボンでつながっている姿です。一匹は美の女神アフロディテ（ビーナス）、もう一匹はアフロディテの息子エロス（キューピット）です。二人が中良く歩いている時に突然、皆が怖れるティフォンが襲いかかって来ました。二人は慌てて魚の姿に変身して近くの河に飛び込んで逃げました。アフロディテは二人がバラバラにならない様にとっさに二人の尻尾をリボンで結んで逃げました。この姿を天に上げたのが魚座です。

ところで、1月の山羊、2月の水瓶、今回の魚、と水に関係のある星座が続いたのですが、これはギリシアやローマ、バビロニア等の地中海沿りの国々が神話の時代に、太陽がこれらの星座を動いて行く間雨季だったのでこんな話になってしまったのではないかと言う事です。

魚座には α 星や β 星等の二重星やM74という渦状星雲やNGC488やNGC7619という小宇宙があります。

いつもの新年会

幹事 高田

毎年恒例の、新年会が1月3日に、いつもの山本食堂の2階、大座敷を貸し切って、行われました。

この時期は県外から里帰りされている、会員の方が顔を出されます。

今年は、県民天文台関西支部の竹市さんが、奥さんと子供さん2人をつれて、飛び入り参加されたのはじめ、同じ関西の吉田健二さんと東京近郊に住んでいるとはいえ、1年の半分は山のなか暮らしという松崎達二君と、千葉の天文同好会で精力的に天体写真を撮られている、宇野誠一さん方が集まって来られました。

それと県内の会員合わせて25名が勢ぞろいしました。

宮本台長の挨拶のあと乾杯。

さて、本日のイベントは、人気の「ピクセンの天体カレンダー」を賞品にして、昔、夜店で良くやった、あの。。。なんというのかな？。。。ほじほじ？の「切り抜き絵」大会です。

カレンダーは中尾君提供、「切り抜き絵」は立川氏提供です。（しかしどこから仕入れて来るんだろう？）

切り抜き開始と同時に、みなさん「切り抜き絵」に目を近づけて一生懸命やっています。さすが20人以上が宴会場でやると、多少異様な気がします。さっそく宮本台長はつばをつけて切り取りにかかっています。さすが完全な反則技ですが、さすが年配者（失礼）だけあって、心得てらっしゃる。下手な人は失敗して3回も4回も、新しいのと取り替えにやってきています。

結局、池永さん方3名が、カレンダーを勝ち取られました。

最後に、山本屋名物、やまかけそばを平らげたところで記念撮影をしてお開きとなりました。

おわり



新天文台計画、着々と進行中

城南町塚原古墳公園内建設予定の、新天文台の計画が進み始めています

1月のTalk About（運営委員会）で、建物、望遠鏡についての話が行われました。

ただし、まだ文化庁の許可や予算等の問題などがあり正式に決まっていません。

正式に決まり次第、星屑にお知らせを致しますのでお楽しみに。

首を長くして待ってネ

(編集委員)

【1月の県民天文台 ~運営日誌より~】

寒いせいか、すっかりお客様が減ってしまいました。しかし、こういふ時に天文台に来ると、ゆっくり星空が楽しめますよ。冬の星座がとってもきれいです。

来客数 46人

開台率 18日/31日 = 58%

日付	天気	来客数	担当運営委員	記事
3(金)	曇りのち 快晴	なし		天文台の新年会の後来ました。(高田) AM3:30-AM5:30までりゅう座流星群の觀望
4(土)	晴れ	7人	中島、高田	国吉、鶴島、小林J
7(火)	曇	なし	永原、町田	小林J
9(木)	晴・曇	なし	長谷、宮本	金柿、鶴島
10(金)	晴れ	なし	三上、仲尾 安達	
11(土)	曇	3人	木下、高田	鶴島、新村、山口
12(日)	晴	2人	鶴島、D渡辺 甲斐	寒い中、以外に月明かりも負けずよく見えた 宮本、中島、小林J、国吉 M41, M42, M35, 月
13(月)	雨			TALK ABOUT •天文台10周年記念行事 •新天文台、建物、望遠鏡の話 •天文台10周年記念誌 宮本、鶴島、長谷、国吉、中島、D渡辺、 新村、永原、高田、中尾、甲斐
14(火)	晴れ	なし	高田 新村	M79, M94 見ました
15(水)	快晴	12人	小林J、国吉 宇都	鶴島、守岡
18(土)	曇り	7人	高田、中島 守岡、濱野	中島先生、願書書きに追われる。
19(日)	薄曇	4人	鶴島、D渡辺	芳野
21(火)	くもり	なし	永原	くもり、たまに星が1コ2コ見えるが 誰も来ないので帰ろう
22(水)	曇り時々 晴れ	なし	国吉	晴れてきたので、夕方来てみたら、段々 曇って来てしまった。 鶴島
24(金)	曇	なし	立川、三上	夕方晴れてましたが後曇りました。小林J
25(日)	晴れ	11人	鶴島、D渡辺	M42, M41, M45, M36, M37, M38, M35, M1 小林J、高田、池永
28(火)	晴れ	なし	永原	よく晴れているが“誰も”来ない日でした
29(水)	小雨	なし	宮本	•新天文台設計プラン打ち合わせ 宮本、鶴島、小林J、有馬、中島

【受領会誌】 会誌ありがとうございました。

「Space Island News 1992.1」 広島天文協会

「New Astro Information No25」 大分天文協会



受賞を喜ぶ県民天文台長の宮本幸男さん

天文雑誌「星の手帖」が毎年頒れたアマチュア天文家に贈る「第九回チロ賞」を、熊本県民天文台長の宮本幸男さん(50)が受賞する。これまで、熊本県民天文台長の宮本幸男さん(50)が受賞することになつた。五月、東京で表彰式が行われる。

アマチュア天文家に贈られる賞としては、最も権威のある賞

独学・県内ファンのリーダー

本格的に始めたのは四十歳

として知られる。今回は標榜図などを作成した中野繁さん(50)(東京都)との同時受賞。宮本さんは小さいころから工作少年で、望遠鏡などを自作していたが、天文学を自作していったが、思うようにならなかった。そこで一念発起し、独学で収差理論を勉強。当時、アマチュアとして初めて完成させた。昭和四十三年に惑星とわかった時が一番うれしかった」と話す。

チロ賞は毎年、天文書籍に貢献した人に贈られており、アマチュア天文家に贈られる賞

県民天文台長宮本さんに「チロ賞」

から、戦後、ようやく暮らしが安定した。娘たちは順次ギフトを買って、作るうちに工作的な虫が再燃。反射鏡を磨いて望遠鏡を作りはじめていたが、思うようにならなかった。そこでもう一度、アマチュアによる、無料のアマチュアとして初めて完成させた。昭和四十三年に惑星とわかった時が一番うれしかった」と話す。

チロは、天体写真家で同

年に入会。同会が五十七年に下益城郡城南町に「県誌の編集委員も務める藤井中心メンバー」として働いた。

翌年からは台長として現

在まで、全国でも例のない白河天文台を開設所を作った。白河天文台は、北海道旭さんが創っていた北海道大の名前。藤井さんは昭和二十四年、福島県西白河郡

天文台長は、墨空への招待

チロはその初代台長。犬の

天文台長は、墨空への招待

チロは、天文ファンの集いも主催し、一躍有名に。五十六

年に死んだ時には、全国から香典が寄せられた。その後

この話は、「星になつたチロ」ボックスとして本にもなっている。



台長へ

編集部より「これもひとえに内助の功、奥様あっての受賞。

奥様に足向けては寝れませんぞ。」

「エッ、いつも一緒に仲が良い？！」

「どうも失礼しました。」

奥様より（宮内庁御用達の東京弁で）

「そんなこと

ないんですよ。」

「ネエ、おとうちゃん。」

平成4年1月27日

熊本日日新聞夕刊掲載より

久々の投稿者紹介



「東京発 熊本県民天文台行」の宇野誠一さん。会員NO. 149。彼は熊本天文研究会時代からの「写真通」で高校生の時すでに3色分解による写真をやっておられました。趣味が高じて現在は東京でバリバリのカメラマンです。その笑顔はモデルさん泣かせともっぱらの噂。愛妻にささえられての天文活動がうらやましい。また、続編を期待します。

見聞録



平成4年1月10日より19日迄、上通りビアーレビル3Fにてイラストレーターである会員の池永久美子さんのイラスト展が開催され、そこにちょっと足を運んでみました。特にプラネタリウムで投影されたアイヌの伝説、『アイヌラックル』の原画は圧巻。思わずねこばばしそうになりました。

もちろん、他の作品も素晴らしい、池永さん的人柄と才能を改めて再認識していました。

※ 昨年は渡辺博さん（会員NO. 129）の写真の個展もあり、このところ会員の催しがめじろおし。次はあ・な・たですか。

星屑の見方あれこれ

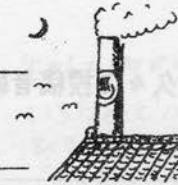


皆さんは『星屑』が手元に届いたらどんな風に見ていますか。まさか開封せずに鍋の下敷きやうちわに、もみほぐしてトイレットペーパーに使っているんじゃないでしょうね。

さて、編集部といたしましては、開封後、まず、皺をのばし（あなたの顔の皺じゃありません。）、写真が入っていればそれを所定の場所に貼り、ひとつの『小冊子』にしていただき、「オッ！なるほど小冊子ができたわ」と、うなずきながら読んでいただければ幸いです。「写真がもったいない」と言う人も、仮にまず貼り、読んだ後に取り外して飾っていただければ、もう、投稿者は天にも昇る喜びとなるでしょう。

おしらせ

熊本市立博物館のプラネタリウムは4月下旬までお休みです。最新鋭機に期待。



冬の夜ってなんとなく静かで好きですね。お気に入りの音楽、さしづめJAZZ。バリトンサックスを奏でるジェリー・マリガンのアルバム、「ナイト・ライツ」を聴きながらひきたてのコーヒーを味わう。窓越しに見えるオリオン、言うこと無し。

(コラッ、星は外で観らんかい！このものぐさ男！！)

そういうば最近は、駄菓子屋ってのが少なくなりましたよね。本当にあまり見かけなくなってしまった。お婆さんが店主というのが定番。駄菓子もいろいろあって、イチゴ飴ってあったでしょう。ひも引っ張るやつ。その中に大きいのが何個か入っていて、それ当てようと必死でひもを引く。これがいつもハズレ。あと、噛んでいると口の中で自然となくなる「ガム」。大人の仲間入りをしたような気分にさせられる「酢こんぶ」、「すずめん卵」（注：熊本弁ではすずめのとは言わない）。小銭を手にし、駄菓子屋へ勉強そっちのけで行ったものです。そこで1円単位でやりくりするのが楽しかった。あれで算数の四則計算覚えた様なもんなんですよね。本当。

そういうた駄菓子屋のお婆さんやそこに集まる友達との付き合いの中で大袈裟に言えば、小さな社会勉強をし、人間関係を学んでいったような気がします。

一種の社交場というか、なくてはならない場所だったんですよね。

天文台の会員の皆さんは「星が好き」で集まつたわけですが、それは一つのきっかけにすぎませんよね。もっと「星」以外のいろんな事にも、お互いに切磋琢磨しあいながら楽しもうじゃありませんか。「星」だけってのはもったいない。同好会のメリットは、そんな楽しい人間関係にあると思います。

天文台も駄菓子屋の雰囲気を大事にしたいなあ。

。。。

★新入会員の紹介 「皆さんどうぞよろしくお願ひします。」★

NO. 417 阿部雅之さん 熊本市新南部町329-2

NO. 418 影山和久さん 熊本市保田窪本町1012-3

NO. 419 林田 茂さん 熊本市水前寺2丁目18-30



熊本県民天文台機関誌「星屑」1992年2月号 通関203号

発行所 熊本県民天文台 861-41 熊本県下益城郡城南町藤山

☎ 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 860 熊本市古京町3-2 ☎ 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463 熊本県民天文台事務局

編集担当 立川正之